

## 第7回 東京都感染症対策連絡会議

令和5年12月7日(木) 午後3時00分  
東京都庁第一本庁舎 33階 特別会議室N6

### 【保健医療局 内藤感染症対策調整担当部長】

ただいまから、第7回東京都感染症対策連絡会議を開催いたします。私は進行を務めさせていただきます、保健医療局感染症対策調整担当部長の内藤と申します。どうぞよろしくお願いたします。

委員の皆様、本日はお忙しい中、本会議にご出席いただき、誠にありがとうございます。委員のご紹介につきましては、机上に配布させていただきました、出席者名簿で代えさせていただきます。

また、本日は感染症の専門家の先生方にお越しいただいておりますので、ご紹介をいたします。

感染症医療体制戦略ボードの猪口先生でございます。

同じく戦略ボードの大曲先生でございます。

医療体制戦略監の上田先生でございます。

東京iCDCからは所長の賀来先生にご出席をいただいております。

それでは議事に先立ちまして、座長の黒沼副知事からご挨拶をいただきます。

### 【黒沼副知事】

それでは冒頭に一言申し上げます。

師走に入りまして、冬らしい、と言いたいところですが、寒暖差の激しい、といった日が増えてまいりました。こうした中では体調を崩しやすく、冬に流行しやすい感染症に一層の注意が必要でございます。

そうした中、これまで減少傾向でありました、新型コロナの定点医療機関あたりの患者報告数でございますが、先週12週ぶりに増加をしております。インフルエンザの感染状況につきましても、依然として注意報レベルを超えているほか、咽頭結膜熱は9週連続で警報レベルを超えております。

本日は新型コロナのモニタリング分析のほか、秋開始接種で使われております、XBB1.5対応ワクチンの効果につきまして、またインフルエンザ、感染性胃腸炎など、新型コロナ以外の感染症についても報告がございます。

年末年始は会食など大人数で集まる機会が増えてまいります。様々な感染症の予防策についても、今一度この場で確認をしたいと考えております。

本日の会議には只今ご紹介いただきました、猪口先生、大曲先生、上田先生、そして賀来

所長にもご出席をいただいております。ありがとうございます。

引き続き専門家の先生方のご知見をいただきながら、庁内及び関係機関とともに適切に連携し、感染症対策に取り組んでまいりたいと考えております。

私からは以上です。

#### 【保健医療局 内藤感染症対策調整担当部長】

ありがとうございました。それではまず最新の新型コロナのモニタリング分析につきまして、専門家の先生方からご説明をいただきます。まず感染動向について大曲先生、お願いいたします。

#### 【大曲先生】

よろしくお願いたします。それでは資料1、二枚目からの資料を使ってご紹介をしたいと思います。

感染の動向でございます。①-1、「定点医療機関当たり患者報告数」であります。第48週の報告医療機関数であります。415施設の報告数が784人です。定点医療機関当たりの患者報告数ですが、前週が定点当たり1.56人で、今回は定点当たり1.89人ということで2週連続で増加をしております。今後の動向に注意する必要があります。またインフルエンザですけれども、定点医療機関当たりの患者報告数は、今週が15.08人でありまして、こちらは12週連続で注意報レベルの定点当たり10人を超えております。

年末年始であります。忘年会、そしてクリスマス会などの会合、そして帰省・旅行が増加するタイミングでもありますので、引き続き場面に応じたマスクの着用、手洗い、換気といった基本的な感染防止対策を周知する必要があります。また体調が悪い場合には、イベントへの参加、あるいは帰省等について、周囲の人への感染リスクも踏まえて慎重に判断する必要があります。

次に①-2です。「60歳以上の定点医療機関当たりの患者報告数」でございます。こちらですが、前週が定点当たり0.28人で今回は0.34人で増加しています。重症化リスクが高い高齢者等の感染拡大に注意する必要があります。また、東京都の感染症情報センターのデータによりますと、今週の新型コロナウイルス感染症の集団発生は10施設でありました。

また、ワクチンであります。秋開始の接種は生後6ヶ月以上のすべての方が接種が可能です。特に高齢者、基礎疾患を有する方には、重症化を防ぐためにも早めのワクチンの接種が望ましいです。また医療機関によってはインフルエンザワクチンとの同時接種も対応が可能であります。

次に①-3の「定点医療機関当たり年代別患者報告数」でございます。こちら、50代と60代での増加が顕著であります。また、若い世代、そして基礎疾患のない方であっても、咳あるいは倦怠感などの後遺症が出現するリスクがあります。こちらについては、引き続き都民の方々にお伝えしていく必要があります。

次に①-4です。「定点医療機関当たり患者報告数」を保健所区域別で見えております。こちらですが約6割、31区域中の20区域において前週よりも増加しました。

次に②です。「#7119における発熱等相談件数」であります。こちらは前週が96.9件、今週は91.4件でありまして、横ばいでございます。また、東京都の新型コロナ相談センターの相談件数でございますが、前週は一日あたり158件、今週は一日あたり163件となっております。

私からは以上でございます。

**【保健医療局 内藤感染症対策調整担当部長】**

ありがとうございました。続きまして医療提供体制について、猪口先生お願いいたします。

**【猪口先生】**

資料7ページ目、③の「救急医療の東京ルールの適用件数」について説明します。救急医療の東京ルールの適用件数は先週が94.9件で、今週が96.4件と横ばいでした。東京消防庁のデータによりますと、救急出動件数は直近7日間で一日あたり2,545件。令和4年の同時期におきましては2,389件ですので、やや増加しております。11月27日には、10月16日以来6週間振りに非常用救急隊を編成し、救急車ひっ迫アラートを発表しております。12月4日にも同じく救急車ひっ迫アラートを発表しました。救急需要が増加する年末年始に向けて、救急車の適時・適切な利用を呼び掛けていく必要があります。年末年始には、体調不良などで不安な場合や、受診を迷う場合は東京都新型コロナ相談センター、#7119、小児救急相談（#8000）が利用できることを改めて周知する必要があります。

④の入院患者数です。入院患者数は前週11月27日は408人でしたが、今週12月4日は440人と横ばいでありまして。高齢者等医療支援型施設では、高齢者施設におけるクラスターに伴う入所が増加しております。ただし、現時点では医療提供体制への大きな負荷は見られておりません。12月7日公表時点の東京都感染症情報センターのデータですけれども、新型コロナウイルス感染症の基幹定点医療機関あたりの入院患者数は、前週の2.4人から今週は2.24人と横ばいでありました。

新型コロナウイルス感染症が5類へ移行し、医療提供体制が通常の状態に戻りつつある中で、初めての年末年始を迎えることから、医療提供体制への負荷の状況を注視する必要があります。都民には、年末年始に向けて、改めて検査キットや解熱剤、鎮痛剤などをあらかじめ自宅に常備しておくよう周知する必要があります。

私の方からは以上です。

**【保健医療局 内藤感染症対策調整担当部長】**

ありがとうございました。最後に変異株の状況につきまして、賀来所長よろしく願いいたします。

**【賀来先生】**

次に変異株について報告をさせていただきます。こちらのスライドはゲノム解析結果の推移について、直近6週間の動きを示したものです。世界で主流のXBB系統は、都内でも引き続き主流となっており、11月13日から11月19日までの週では全体の82.4%を占めております。XBBの亜系統別では11月13日から11月19日までの週において、EG.5系統が64.7%、XBB.1.5系統が11.8%、XBB.1.16系統が5.9%となっております。また、WHOが11月21日付でVOI（注目すべき変異株）に指定したBA.2.86系統は前週の8.1%から9.5%増えて、17.6%となっております。

東京iCDCでは、引き続き、ゲノム解析により、変異株の動向を監視してまいります。私からの報告は以上となります。

**【保健医療局 内藤感染症対策調整担当部長】**

ありがとうございました。次に新型コロナXBB.1.5対応ワクチンの効果について東京iCDC賀来所長からご説明をいただきます。

**【賀来先生】**

それでは、令和5年秋開始接種のXBB.1.5対応ワクチンの効果についてご説明を申し上げます。令和5年秋開始接種で使用されております、XBB.1.5ワクチンの効果について、9月14日開催の第5回連絡会議でもご説明をしたところですが、最新の知見を踏まえ、改めてご説明をいたします。

まずは都内の変異株の直近の状況についてです。先ほどもご説明申し上げましたが、XBB.1.5を含むXBBの亜系統が主流となっており、12月7日時点で、全体の82.4%を占めております。また、XBBの亜系統の中では、EG.5が半数以上を占めております。XBBの亜系統は、抗原性が類似しており、EG.5とXBB.1.5においても同様です。

このような状況を踏まえて、XBB.1.5ワクチンの効果について、東京iCDCの専門家であります宮坂先生から、ご意見と資料を頂戴いたしました。11月20日に国際的な医学誌ランセットに掲載された研究によりますと、グラフにありますように、XBB.1.5対応ワクチン接種後は、様々な変異株に対して、接種前と比較して中和抗体が大きく上昇しております。加えて、メモリーB細胞の増加とT細胞の活性化が見られたとのことでした。

まとめとしまして、XBB株に対して、今回用いるXBB.1.5ワクチンは効果が期待でき、現在主流となっているEG.5にもXBB.1.5ワクチンが効く可能性が高いとのことでした。また、追加ワクチン接種は、感染予防に一定の効果があり、入院・死亡予防にもさらに効果があるとされています。東京都におかれましては、ワクチン接種を希望される方がおられましたら、できるだけスムーズに接種できますよう、引き続き情報発信や機会の提供に努めていただきたいと思います。

私からは以上です。

【保健医療局 内藤感染症対策調整担当部長】

ありがとうございました。次に、新型コロナ以外の感染症の状況について、保健医療局西塚感染症対策調整担当部長よりご説明をいたします。

【保健医療局 西塚感染症対策調整担当部長】

コロナ以外の感染症について資料3を用いましてご説明いたします。資料3の1ページ目をご覧ください。始めに9月21日に注意報を発表したインフルエンザでございます。12月3日までの第48週の定点医療機関当たり患者報告数は15.08人と12週連続して注意報レベルを超えています。ワクチンを希望する方は、早めに主治医とご相談をお願いいたします。

2ページ目でございます。現在警報を発表しております、咽頭結膜熱でございます。今週の定点当たり患者報告数は3.63人とさらに増加しております。病原体はアデノウイルスでアルコール消毒が効きにくい、石けんによる手洗いを呼びかけております。

3ページ目をご覧ください。ここからは現在増加傾向が見られる感染症二つをご紹介します。まずは感染性胃腸炎であります。原因はノロウイルスやロタウイルス等でございます。手や食品を介してウイルスが口に入ると、嘔吐、下痢、腹痛を起こす疾患です。下段で二つのウイルスを比較しております。例年、ノロウイルスは12月、ロタウイルスは2月頃ピークを迎えます。ロタウイルスであります。右下にあるように令和2年から乳幼児の定期接種が始まっております。

4ページをお開きください。上段に過去6シーズンの感染性胃腸炎の患者数を示しております。2023～2024シーズンを赤で示しておりますが、昨年一昨年とほぼ同じ流行パターンで現在7.19となっております。下段は昨シーズンの集団感染報告件数となります。年末年始に向けて胃腸炎に対する対策が必要となっております。

5ページ目をお開きください。感染性胃腸炎の予防と対策です。二枚貝などは十分加熱してください。調理や食事の前は石けんで手洗いをお願いします。左下、学校や保育園では、嘔吐物からウイルスを吸い込まないよう、マスクをしてペーパータオルなどで拭き取り、適切な濃度の次亜塩素酸ナトリウムで消毒してください。また、調理従事者は健康管理を徹底し、体調が優れないときは調理をしないようお願いいたします。

6ページ目になります。東京都ではイラストで学べる「食中毒ずかん」などを制作しています。また、「食の安全都民講座」も配信中です。それぞれ掲載しているQRコードからご覧いただけます。

7ページ目になります。最後の疾患です。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でございます。5類感染症です。12月3日までの2023年第48週の患者報告数は定点当たり5.35人。1999年の感染症法施行以来、最も高い水準となっております。今後の流行に注意が必要です。この病気は、いわゆる溶連菌による細菌性の上気道感染症で、咳やくしゃみ、また細菌が付着

した手や食品を介して広がり、感染力が強く、学校や家庭など集団感染にもつながりやすい病気です。

最後、8ページ目です。症状は発熱や喉の痛みなどで舌が苺のように真っ赤になる、「いちご舌」が特徴的です。赤く小さな痒みのある皮膚の発疹が、首や胸、手首、足首に出て全身に広がる、「猩紅熱」と呼ばれる症状を来したり、また溶連菌の毒素が原因で、急性糸球体腎炎など、重症化することがございます。予防は手洗いやマスクが有効です。ペニシリン系やマクロライド系の抗生物質が効果的で、重症化、合併症を防ぐため、医師が処方した日数を飲み切ることが重要です。喉の痛みがあったら早めに受診し、診断を受けることも肝要です。

以上、コロナ以外の感染症についてでございます。

**【保健医療局 内藤感染症対策調整担当部長】**

ありがとうございました。議事は以上となります。

それでは、ここで本日お越しいただいている専門家の先生方から、全体を通じてコメントをいただければと思います。猪口先生、いかがでしょうか。

**【猪口先生】**

医療機関の立場からお話をさせていただきますと、今の発熱性の感染症でありますけれども、小児科を見ても、インフルエンザがかなり多いようです。溶連菌感染症も、最近は普通に見られる、という印象だそうです。それだけの患者さんが来ておりますけれども、まだひっ迫してなかなか診られない、混雑して診られないというわけではありません。コロナの場合は、自宅でキットなどで診断することができますけれども、それ以外の疾患の場合には、医療機関にかかれた方がいいだろうと思います。年末年始、特に29日過ぎから、1月の5日ぐらいまでは、医療機関が休止になっているところが、今年の場合は多いと思います。医療機関は三年ぶりに休みを取っているというところが多いと思いますので、こちらはコメントでも述べましたけれども、一部の医療機関に患者が集中するということになると、また混乱してまいりますので、コロナのキットや解熱・鎮痛剤をぜひご自宅に準備なさっていただくのがよいのではないかと思います。

以上です。

**【保健医療局 内藤感染症対策調整担当部長】**

ありがとうございました。続いて大曲先生、いかがでしょうか。

**【大曲先生】**

ありがとうございます。諸外国の動きを見ても、例年と違っていろんな感染症が、普段と違った時期に、しかも例年見られない高いレベルで流行しているということがあります。そ

うした観点から行きますと、日本でも、コロナは再増加の兆しがありますし、インフルエンザも大変流行していますし、今日咽頭結膜熱と A 群  $\beta$  溶連菌の咽頭炎の話がありました。こちらも大変流行していますので、同じようなことは日本でも起こっているのかな、と思って見えています。いずれにしましても、今の時期はそういう状況であり、いろんな意味で感染症にかかるリスクが非常に高い時であります。お忙しい 12 月、あるいはゆっくりしたい年末年始に感染症になるのは、決して皆さんの本意ではないと思いますので、よくよく感染防止対策にお気を付けいただければと思います。

私からは以上です。

【保健医療局 内藤感染症対策調整担当部長】

ありがとうございました。続いて上田先生、いかがでしょうか。

【上田先生】

新型コロナウイルス感染症の状況であります。先ほど大曲先生からもご説明があった通り、先週の患者報告数は増加に転じ、今週も増加しております。しかし、入院患者数はほぼ横ばいの状況であり、現時点では医療提供体制への大きな負荷は見られません。インフルエンザについては、患者報告数は引き続き注意報レベルを超えており、十分な注意が必要です。ご自身や周りの方の健康を守ることに加えて、医療提供体制の負荷を減らすためにも、混雑している室内や電車内を始め、様々な状況に応じたマスク着用、換気、手洗いなど感染防止対策をよろしくお願いいたします。

新型コロナウイルスが 5 類に移行して初めての年末年始です。クリスマス会、忘年会、帰省先での集まりなどを楽しみにされている方が多いと思われます。新型コロナウイルスやインフルエンザの感染状況なども踏まえ、基本的な感染防止対策や体調が悪い時の参加自粛など、様々な配慮をいただくことで、ぜひ楽しい会をしていただければと思います。

年末年始は、医療機関の多くが、新型コロナ診療に配慮しながらも、流行前に近い体制になります。もし発熱などの症状があって不安な場合、都の新型コロナ相談センターは年末年始も変わらず毎日 24 時間体制で対応しておりますので、医療機関を受診する前に是非ご相談ください。また、医療機関を受診を希望される場合には、お住まいの自治体のホームページや広報誌に加えて、都のホームページ上の医療機関案内サービスひまわりで当番医が確認できますので、是非ご活用ください。

都立病院含め、都内の救急医療機関は年末年始も救急患者をしっかりと受け入れ、都民の命と健康を守ってまいりますので、都民の皆さんのご協力もよろしくお願いいたします。

以上です。

【保健医療局 内藤感染症対策調整担当部長】

ありがとうございました。最後に賀来先生、お願いいたします。

**【賀来先生】**

これまでの先生方のご発言も踏まえて、総括的なコメントをさせていただきます。

本日は新型コロナウイルスについてモニタリングの状況、また、XBB.1.5 対応ワクチンの効果、また新型コロナ以外の感染症について、インフルエンザ、咽頭結膜熱、感染性胃腸炎などについて報告がございました。

新型コロナのモニタリング状況ですが、先週の定点当たり 1.56 人から 1.89 人と 2 週連続で増加し、今後の動向に十分に注意していく必要があると思われます。また、インフルエンザは定点当たり患者報告数が 15.08 人と 12 週連続で注意報レベルを超えているほか、咽頭結膜炎も 9 週連続で警報レベルを超えています。

本日はまた、これからの季節に注意が必要な感染症として、ノロウイルスやロタウイルスが原因となる感染性胃腸炎、溶連菌感染症についてもご報告がございました。

感染性胃腸炎は、先ほどもご報告がありましたが、汚染された二枚貝を生で食べることや、感染した人の嘔吐物等に触れた手で口を触ることなどで感染します。年末年始は、ご自宅での会食や調理の機会も増えると思います。十分な加熱や洗浄、手洗いに努めていただきたいと思います。

また、溶連菌感染症も冬に向けて感染者が増加傾向にあります。咳やくしゃみなどによる飛沫感染のほか、細菌が付着した手で口や鼻に触れることで、あるいは、汚染された食品を介して感染します。予防には手洗い、そして咳エチケットが有効となります。

本日は様々な感染症についての報告があり、それぞれの予防のポイントについても説明がありました。これまでコロナ禍で多くの方々が手洗いや換気、必要に応じたマスクの着用など基本的な感染対策に取り組まれてきました。感染症対策においては、日頃からの基本的な対策に加え、それぞれの感染症が流行しやすい時期、感染経路など、都民の皆様がそれぞれの感染症について理解をし、適切な対策を主体的に取り入れていただくことも重要と考えます。

東京 iCDC では、これからも、東京都が様々な感染症への対策を進めるにあたって、専門家の立場から必要な分析や助言を行い、都の取り組みを支えてまいりたいと思います。

私からは以上でございます。

**【保健医療局 内藤感染症対策調整担当部長】**

ありがとうございました。最後に、ご出席の皆様からご発言やご質問はございますでしょうか。

ないようでございますので、以上をもちまして、第 7 回東京都感染症対策連絡会議を閉会とさせていただきます。

ありがとうございました。